加入国際学術団体に関する調査票

1　国際学術団体活動状況（内規第 11 条　活動報告）

団体名	和	国際歴史学委員会
	英	International Committee of Historical Sciences（略称 ICHS/ 仏文 CISH）
	団体 HP（URL）	https://www.cish.org/index.php/en/ （日本学術会議が加盟していることの記載　有　・　無　）
国際学術団体における最近のトピック（学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等）		・コロナウィルス流行のため延期されていた第 23 回大会は 2022 年 8 月にポーランド共和国ポズナンで開催された。 ・2024 年 10 月に東京で総会を開催して運営上の重要問題を議決し、付随して国際学術集会 Crossings and Connections: East Asia and the World, c1800-1945 を開いた。 ・2024 年 10 月、国際歴史学委員会賞の授賞式を東京のブラジル大使館で開催した（受賞者 Laura de Mello e Souza 教授）。
当該国際学術団体が対応する分野において学術の進歩に貢献した事例		・世界の多様な研究潮流を大会のセッションとして採り上げている。例えば、2022 年大会でのメインテーマの一つ「動物と人間の歴史」は、世界の多様な現象を説明する参照枠組みを提供した。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等		・グローバルな視野に立った歴史学者の連帯に努め、財源の限られた国々も大会に加わることができるような財政的な工夫に努めている。アフリカ諸国への加盟勧誘に取り組んでいる。
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本の参加によって進展や成果があった事例		・2021 年より渡邊啓貴氏が理事として、国際歴史学委員会の理事会で重要な役割を果たしている。 ・日本国内委員会は日本歴史学協会とともに 2024 年 10 月 26 日に帝京大学八王子キャンパスにて国際学術集会 Crossings and Connections: East Asia and the World, c1800-1945 を開催し、歴史学の新しい動向を提示した。
当該団体に加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民にとってのメリットや変化		・国際的な歴史学の動向について、最新の情報を把握して、日本学術会議、とくに史学委員会の成員に伝達することで、国際的な文脈に即して適切な意見表出を行うことできる。 ・国際歴史学会議の開催に際しては、日本歴史学協会と協力して、セッションの設置を図ることにしている。これにより、例えば、災害と史料保存といった日本の地域復興に関する論点について、その意義を国際発信するとともに、歴史認識や地域振興に関わる示唆を日本国民に還元することも可能となる。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）		・女性のリーダーシップを重視する姿勢を示しており、現体制では会長は女性であり、副会長 2 名のうち 1 名が女性である。 ・2024 年 10 月 25 日に帝京大学霞が関キャンパスで開催された総会にて、若手育成のため、International Students of History Association (ISHA)を ICHS の Internal Committee として受け入れ、のちの正式の加盟団体への道を開いた。

2　今後の予定について（内規第 11 条　活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定（招致等の予定も含む）	無し（既に 2024 年 10 月に総会を東京で開催した）
日本人の役員立候補等の予定	無し（既に渡邊啓貴氏が現職の理事となっている）
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動き	無し（既に 2024 年 10 月に国際学術集会を東京で開催した）

3　国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条　活動報告）

<table>
<tr><td rowspan="4">総会・理事会・各種委員会等の状況（過去５年間及び今後予定されているもの）</td><td>総会開催状況</td><td>2021 年総会（オンライン）
2024 年総会（開催地：東京）
2026 年総会予定（開催地：ライプツィヒ）
2028 年総会予定（開催地：イェルサレム）</td></tr>
<tr><td>理事会・役員会等開催状況</td><td>2019 年理事会（開催地：ヴァチカン）
2021 年理事会（オンライン）
2022 年理事会（開催地：ボズナン）
2023 年理事会（オンライン）
2023 年理事会（開催地：リスボン）
2024 年理事会（オンライン）
2024 年理事会（開催地：東京）</td></tr>
<tr><td>各種委員会開催状況</td><td>年（開催地：　　）、　　年（開催地：　　）、
年（開催地：　　）、　　年（開催地：　　）、
年（開催地：　　）、　　年（開催地：　　）、
年（開催地：　　）、　　年（開催地：　　）、
年（開催地：　　）、　　年（開催地：　　）</td></tr>
<tr><td>研究集会・会議等開催状況</td><td>2022 年大会（開催地：ポズナン）
2024 年国際研究集会（開催地：東京）
2026 年国際研究集会予定（開催地：ライプツィヒ）
2028 年大会予定（開催地：イェルサレム）</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定</td><td>2022 年、第 23 回大会（ポズナン）、8 人（うち代表派遣：吉澤誠一郎）
2024 年、国際研究集会（東京）、35 人</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="6">国際学術団体における日本人の役員等への就任状況（過去５年）</td><td>役職名 | 役職就任期間 | 氏名 | 会員、連携会員の別</td></tr>
<tr><td>理事 | 2021～現在 | 渡邊啓貴 | 非会員</td></tr>
<tr><td>| ～ | | （　　期）会員・連携</td></tr>
<tr><td>| ～ | | （　　期）会員・連携</td></tr>
<tr><td>| ～ | | （　　期）会員・連携</td></tr>
<tr><td>| ～ | | （　　期）会員・連携</td></tr>
<tr><td>| ～ | | （　　期）会員・連携</td></tr>
</table>

出版物	1　定期的（年　　回）　主な出版物名 2　不定期　主な出版物名 *News Letter, International Committee of Historical Sciences*
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 （https://www.cish.org/index.php/en/presentation/newsletter-archive/）	

４　国際学術団体に関する基礎的事項（内規第３条、４条、５条）

<table>
<tr><td rowspan="3">国内委員会（内規４条第３号）</td><td>委員会名</td><td>国際歴史学会議等分科会</td></tr>
<tr><td>委員長名</td><td>吉澤誠一郎</td></tr>
<tr><td>当期の活動状況</td><td>・第 26 期・第 1 回分科会は 2024 年 1 月 31 日 10:00～12:00 に開催した(オンライン開催)。第 26 期の役員選出の後、CISH の総会が 2024 年 10 月に予定されており、それに付随する国際学術集会のために準備していくべきこと、日韓歴史家会議もこれまでと同様に毎年開催し続けていくこと、第 25 期に開催した「歴史学の「国際化」とは何か」シンポジウムを踏まえて今期も更なる展開を図ることについて議論した。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">内規第３（国際学術団体の要件関係）</td><td colspan="2">国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である
1. 該当する　　２．該当しない
※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載
（https://www.cish.org/index.php/en/presentation/constitution/）</td></tr>
<tr><td colspan="2">各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている（主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か）
1. 該当する　　２．該当しない
※根拠となる資料の添付又は URL を記載
（https://www.cish.org/index.php/en/presentation/constitution/）</td></tr>
<tr><td colspan="2">下記の事項（ア～エ）のいずれか一つに該当するか（該当するものに〇印）
ア 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの
イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの
ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの
エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</td></tr>
<tr><td colspan="2">10 ヵ国を超える各国代表会員が加入している
1. 該当する　　２．該当しない</td></tr>
<tr><td rowspan="2">加入国数及び主要な各国代表会員を 10 記載</td><td>（54 ヶ国）</td></tr>
<tr><td>・Korean National Committee of Historical Sciences／大韓民国
・Association of Chinese Historians／中華人民共和国
・American Historical Association／アメリカ合衆国
・Associação Nacional de História ／ブラジル
・Association des Historiens du Sénégal ／セネガル
・Swiss Society for History／スイス
・Svenska Historiska Föreningen／スウェーデン
・Verband der Historiker und Historikerinnen Deutschlands／ドイツ
・Czech National Committee of Historians／チェコ
・The Polish Academy of Sciences ／ポーランド</td></tr>
</table>

（参考）
国内関係学協会（主要１団体）
日本歴史学協会